



パトリツィア・コパチンスカヤ (2023.3.23) © 藤本史昭

TOPPANホール ニューイヤーコンサート 2027

中野りな (ヴァイオリン) / 田原綾子 (ヴィオラ) / 伊東 裕 (チェロ)
北村明日人、谷 昂登 (ピアノ)

楽聖の未来を予見する、寿ぎの一夜 柴田克彦

上野通明 (チェロ) & レミ・ジュニエ (ピアノ)

「剛」と「柔」が織り成す、透徹の洗練 松本良一

第66回 ブゾーニ国際ピアノコンクール 予選会

Glocal Piano Festival 2026 at TOPPANホール

[Schedule 2026.11～2027.3]

[Information]

2026/2027 シーズン主催公演 [後期] 発売日のお知らせ

【追加決定！】佐藤俊介 (ヴァイオリン) × Trio Rizzle × 大谷恵理架 (ギター)

ランチタイムコンサート Vol.143 的場 桃 (ヴァイオリン)

ルートヴィヒ・クヴァント & ゲルハルト・オピッツ デュオ・リサイタル

辻本 玲 & 伊東 裕 チェロ・デュオ リサイタル

TOPPAN HALL NEW YEAR CONCERT



Lina Nakano



Ayako Tahara



Yu Ito



Asuto Kitamura

楽聖の未来を予見する、寿ぎの一夜

TOPPANホールの〈ニューイヤーコンサート〉が、通常と一線を画したディープな構成であることは、もはや周知の事実であろう。しかしそこには、「ニューイヤー」ならではのスペシャル感がある。2027年もそうだ。プログラムは没後200年を迎えたベートーヴェン(1770-1827)の作品ゆえに、極度にレアな内容ではないものの、中身はスペシャルな要素に溢れている。

まずは出演者。むろんホールゆかりの奏者が多く、特に若手演奏家が揃っている。幕開けを飾るピアノの北村明日人は、東京芸大とチューリヒ芸大で学び、第46回ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ他多くの賞を受賞。すでに東京フィル、新日本フィル等の著名楽団と共演している。彼は、時流におもねることなく、自分の言葉で音楽を語る稀少な俊英。何せTOPPANホールが、〈ニューイヤー〉の1曲目＝新年最初の演奏を託すのだから、信頼度の高さと期待の大きさが如実に表れている。次いではヴァイオリンの中野りな。桐朋学園で学んだ彼女は、第90回日本音楽コンクールで優勝し、第8回仙台国際音楽コンクールにおいて史上最年少の17歳で優勝した敏腕奏者だ。彼女もまた、作品の特質を銜いなく表現する音楽性の高さを持っている。そしてピアノの谷昂登も桐朋学園で学んだ逸材。第90回日本音楽コンクール優勝他多数の受賞歴を誇り、読響、東響等、著名楽団との共演を重ねている。当ホールでは、2026年7月のハーゲンQ世界最終公演でシューマンのピ

アノ五重奏曲を共演し、世界最高のカルテットの面々を唸らせた。その優れた実力もさることながら、現在ケルン音大で学ぶ彼の、本場で得た進化が楽しみとなる。彼らに加わるのが、ヴィオラの田原綾子、チェロの伊東裕というTOPPANホールでもお馴染みの名手たち。共に、持ち前の巧みな手腕と当ホールでの数多のアンサンブル経験を反映した名奏を展開してくれるに違いない。また前記のように、出演者の大半は〈ランチタイム コンサート〉等でホールとの関係を築いてきた演奏家。そこも当然TOPPANホールの〈ニューイヤーコンサート〉ならではのスペシャル感といえるだろう。

もう1つのスペシャルな要素はピアノだ。前半はスタインウェイD、後半は1909年製ベーゼンドルファーModel250が使用される。スタインウェイDは開館当初から使用されてホールに馴染んできた楽器。華麗な響きが特徴のスタインウェイだが、親密な当ホールで弾かれ続けてきた同楽器は、小ホールにも合った独特の味わいを有している。ベーゼンドルファーの方は、ウィーン国立歌劇場で長らく活躍した楽器で、2025年からTOPPANホールに貸与され、ここぞの場面で個性を発揮している。柔らかく質朴なトーンはまさに当ホールにピッタリ。この2台の聴き比べも今回の大きな楽しみとなる。

さらには演目も面白い。かのベートーヴェン特集ながらも、Op.31以前の若き日(1795～96年及び1801～02年)の作品ば

かりが並んでいる。最初に北村が弾くのはピアノ・ソナタ第3番。Op.2とはいえ、4楽章構成・ハ長調の堂々たる作品だ。ベートーヴェンの気宇壮大な意欲が投影された同曲は、スタインウェイの響きにも北村の気質にも相応しく、冒頭から注目の1曲となる。おつぎはヴァイオリン・ソナタ第4番。楽聖の同ジャンル初の短調作品で、元々は有名な第5番《春》とセットで作曲されたため、明るい《春》とは対照的な騒りが打ち出されている。ここは初共演となる中野と北村のコンビが引き出す同曲のフレッシュな魅力への期待も大きい。またこれら2曲は、ツィクルス以外での単独演奏の機会が稀な名作。今回は楽曲の真価を再認識する喜びも待っている。

後半最初はピアノ・ソナタ第18番。《ハンマークラヴィアー》以前のソナタでは最後の4楽章構成で、スケルツォとメヌエットを両方置いて緩徐楽章を欠いた明朗で浚刺とした曲調は、交響曲第8番を彷彿させる。ベートーヴェンの同ソナタは第19、20番が初期に書かれた「やさしいソナタ」ゆえに、18番といえども第21番《ワルトシュタイン》の前にあたる作品。この“隠れた充実作”ともいえる名曲を、谷がウィーンの楽器らしい柔らかさを持ったベーゼンドルファーModel250を弾いて、いかに表現するか？ 極めて興味深い。最後のピアノ四重奏曲 Op.16は、当時大人気を博したピアノと管楽器の五重奏曲のベートーヴェン自身による編曲版。ただし楽聖による同編成作品はウィーン時代ではこれが唯一なだけに、ペー

第66回 ブゾーニ国際ピアノコンクール 予選会 Glocal Piano Festival 2026 at TOPPANホール

数あるコンクールのなかにあって歴史と権威を誇り、近年はユニークな審査手法を打ち出して独自の存在感を放つブゾーニ国際ピアノコンクール。第66回の予選会はウィーン・コンツェルトハウスなど世界各地で開催、その日本会場にTOPPANホールが選ばれました。「音楽愛好家が審査員に」の合言葉どおり、各会場で2日間12名の演奏を聴いたお客さまの投票で、最終ステージに進むコンテスタントが

決まります。TOPPANホールの素晴らしいお客さまに、ぜひ本選出場者を選んでほしいと期待を寄せ本コンクールの芸術監督ペーター・パウル・カインラート氏と、第62回大会の審査委員長を務めたホールお馴染みのピアニスト、ティル・フェルナー氏から、熱いメッセージが届きました！

音楽は自由に生まれ、その自由こそが宿命

ブゾーニ国際ピアノコンクール芸術監督 ペーター・パウル・カインラート



音楽には絶対的な真実というものとは存在せず、誰もが自らの手で形づくることのできる自由の一形態なのです。フェルッチョ・ブゾーニ自身もかつて次のように表現しました。

「音楽は自由に生まれ、自由を勝ち取ることこそがその宿命である」

今日の音楽世界における自由とは、特定の団体からの独立性を意味します。本コンクールは18ヶ月間にわたる多様な段階を経て開催されており、3つのまったく異なる審査員団によって審査が行われています。そして今回、私たちは音楽界において疑いようもなく最も重要な存在である「聴衆自身」にも、その役割を担っていただくことを決めました。

TOPPANホールほどプログラミングに特色があり、質の高い公演を提供しているコンサートホールは世界でも稀であり、さらに、TOPPANホールの聴衆は極めて高い音楽的審美眼を備えています。このまったく新しい仕組みで、ブゾーニ・コンクールは従来の枠組みを打ち破ります。

次世代の演奏者を選出するにあたり、深く見識のある経験豊富な聴衆が寄り添ってくれることを、フェルッチョ・ブゾーニ自身もきっと喜んでくれるに違いない——私たちはそう確信しています。

「確かな耳」に信頼と期待を寄せて

ピアニスト ティル・フェルナー



1949年に創設されたフェルッチョ・ブゾーニ国際ピアノコンクールは、世界で最も重要かつ長い伝統を誇るコンクールのひとつです。その受賞者には、マルタ・アルゲリッチ、アルフレート・ブレンドル、リチャード・グードといった著名なピアニストたちが挙げられます。2019年、私は審査委員長としてこのコンクールに携わり、その高い水準と公正さを実感しました。

なかでも強く印象に残っているのは、このコンクールの大きな特徴ともいえる、常に革新を続け、変化していこうとするスピリットです。その根底にあるのは、「現代における世界最高水準のピアノコンクールとは、いかにあるべきか」という問いです。このプロジェクトにTOPPANホールが参加することを、大変嬉しく思っています。

私はこれまでTOPPANホールの舞台上で数多くの演奏をする機会に恵まれてきましたが、ホールの経験豊かな聴衆の皆さまの、音楽に対する鋭く繊細で深いご理解には、毎回とても感銘を受けています。

TOPPANホールで長年にわたり世界最高水準の室内楽に親しんでいらした皆さまがこのプロジェクトに参加するということに、大きな意味があると私は考えています。きっと単に高度な技巧を披露する演奏や、外面的な効果を狙った演奏ではなく、真の音楽的個性を備えたピアニストを選んでくださることでしょう。東京会場の皆さまがどのような選択をされるのか、今から楽しみに、そして大きな期待を寄せています！

第66回 ブゾーニ国際ピアノコンクール 予選会
Glocal Piano Festival 2026 at TOPPANホール
2026年11月16日(月)、17日(火) 各日18:30
4,000円／2公演セット券7,500円
共催：フェルッチョ・ブゾーニ・グスタフ・マーラー財団

【予選参加者】
11月16日(月)
チェン・タンルイ チョン・スンホ
イワン・ドブロドヌイ リュウ・イサイ
前川愛実 バトリック・ヒデオミ・タウンゼント
*演奏曲目はWEBサイトをご覧ください。

11月17日(火)
ベ・ジェスン 畠山咲葉
ネイツ・カンブレト ジン・シェンエン
ティエ・シュンシュン ヨ・ユンジ



Akito Tani

柴田克彦

トーヴェン上昇期のピアノ四重奏曲として清新な魅力を放っている。ピアノと弦楽器3本のコラボ作品を谷と中野がどう紡ぐか？ここは田原と伊東の室内楽経験も強力な武器&援護となる。

かくして、俊才たちの技倆、ピアノによる感触の違いを、ベートーヴェンの作品で溢れそうな2027年においても恐らく唯一と思しき、楽聖の未来を予見したプログラムで堪能できるのがこの公演。やはりTOPPANホール of 〈ニューイヤーコンサート〉はひと味違う。

(しばた・かつひこ／音楽評論家)

残席わずか

TOPPANホール ニューイヤーコンサート 2027

2027年1月8日(金) 19:00

中野りな(ヴァイオリン)／田原綾子(ヴィオラ)／伊東 裕(チェロ)
北村明日人、谷 昂登(ピアノ)

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第3番 ハ長調 Op.2-3[北村]
ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第4番 イ短調 Op.23[中野、北村]
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第18番 変ホ長調 Op.31-3[谷]
ベートーヴェン：ピアノ四重奏曲 変ホ長調 Op.16[中野、田原、伊東、谷]

[使用楽器]

北村明日人：スタインウェイD／谷 昂登：1909年製ベーゼンドルファー Model250

6,000円／U-25 3,000円 全席指定

特別協賛：鹿島建設株式会社

聴衆参加で拓く、コンクールの新時代

高坂はる香

国際コンクールはその歴史の中で、優れた才能を発見する有意義な場となるため、より良い在り方を模索し続けてきた。真の芸術家であり、かつ世間が求める音楽が生み出せる人を、公平性を保ちながら見つけ出そうとする。そんな数々のコンクールの中でも、ブゾーニ国際ピアノコンクールは、新しい試みを取り入れながら存在意義をより確かなものとしている。イタリアの名手、フェルッチョ・ブゾーニの没後25周年だった1949年に、イタリア、ボルツァーノで創設。これまで、イェルク・デームス、マルタ・アルゲリッチ、ギャリック・オールソン、アレクサンダー・コプリンといったピアニストを優勝者として輩出してきた。また日本からは、昨年ショパン国際ピアノコンクール入賞で注目された桑原志織が2019年第2位に輝いている。歴代の審査員には、創設に関わったミケランジェリをはじめ、アラウ、バックハウス、コルトー、リパッティ、ルービンシュタインなど錚々たる名が並び、

現芸術監督は国際音楽コンクール連盟会長。そんなところも、同コンクールが改良を重ねながら発展する理由といえるだろう。近年の画期的な試みの一つが、“音楽愛好家が審査員に”というコンセプトのもと、世界の主要都市で一般公開のもと予選を行うことだ。

2026年は「グローバル・ピアノ・フェスティヴァル」とし、9都市のホールなどと組んで開催。出場者はビデオ審査を通過した120名で、その東京予選の会場にTOPPANホールが選ばれた。11月16、17日の2夜にわたり、国際色豊かな12名が競演。両日で全員の演奏を聴いた方は、本大会に進んでほしい出場者に投票できる。そうして各会場の聴衆から選ばれた奏者と、審査員によって選ばれた奏者の計39名が、来年夏、イタリアで行われる本大会の舞台に立つことになる。

コンクールではしばしば、教育者や演奏家による審査員団が選んだ人と、聴衆から人気を集めた人が一致しない現象も起きる。“本物の芸術家”を評価するために専門家がいののは確かだが、最後に聴き手となるのは一般の音楽愛好家だ。その溝を埋める意味でも、世界の主要ホールと組み、そこに足繁く通う耳の肥えた聴衆を“主役”としてコンクールを盛り上げることは有効といえそう。聴き手にとっても、この段階で応援し始めたピアニストが世界に挑み、スターになるかもしれない過程を見守ることは、興味深い体験となるだろう。今回の予選は、選曲が完全に自由とのこと。ピアニストの個性が光り、コンクールという場であることを忘れるおもしろい演奏に出会えるかもしれない。

(こうさか・はるか／音楽ライター)



Michiaki Ueno

「剛」と「柔」が織り成す、透徹の洗練

松本良一

チェロの上野通明とピアノのレミ・ジュニエ、二人の音楽スタイルをひとことで言い表すとすれば、「剛」の上野と「柔」のジュニエとなるだろうか。いや、勝手に先入観を申し上げるようで恐縮だが、これまでの二人の演奏を聴いてきて、上野の何ものも恐れぬ強靱な音と、ジュニエのすべてを包み込むしなやかな響きは、好一對をなすと思うのだ。そして二人には、生来の格調の高さ、透徹した洗練が備わっている。

2021年にジュネーヴ国際音楽コンクールで優勝した上野について、皆さんはすでに多くのことをご存じだろう。音楽の本質に迫るその真剣な姿勢、バッハからブリテンまでチェロで弾けるあらゆる作品に挑む度量の広さは、すでに大家の風格に迫っている。「次はどんなことにチャレンジしてくれるのだろうか？」と、コンサートのたびに期待はいやが応でも高まるのだ。

上野のチェロは強靱だが、難しいパッセージをありあまる技巧でねじ伏せるようなことはしない。それは音楽の本質から外れるからだ。テクニックはあくまで作品の内なる精神を引き出し、聴き手に訴えかける「強度」を高めるためのもの。一例を挙げれば、プーランクの《チェロ・ソナタ》の録音を聴いてほしい。確固とした造形力と豊かな音色が、甘美な楽想の背後にある厳しい精神性を絶妙なバランスで描き出している。

上野より3歳年上のジュニエは、1992年フランス・モンペリエ生まれ。パリのエコール・ノルマル音楽院やパリ国立高等音楽院で学び、2013年、20歳の時にエリザベート王妃国際コンクールで2位に入賞し、一躍世界の注目を集めた。東京の「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」でその演奏に触れた人もいだろう。澄み切った清流のような端麗なタッチと、表情豊かで叙情にあふれたアーティキュレーションは、近年ますます成熟の度合いを深めている。

そのピアノは、最初に耳に届く響きの愉悦とその後で心に染みこむように広がる内面の美を、同時に伝えてくれる点で抜きん出ている。2014年に最初に来日して「ラ・フォル・ジュルネ」で弾いたラフマニノフの《ピアノ協奏曲第3番》は忘れられない。あの絢爛豪華で壮大なスケールの音楽を、特に第2楽章で彼はまるで恋人同士の親密な会話のようなみずみずしさをもって語りかけた。それでいてオーケストラの音量に負けない、突き抜けるよう

な澄んだ音で楽器を鳴らす。この曲でそんな演奏が可能だとは予想すらしていなかった！

そんな二人がドイツで出会って意気投合したのは、うれしい知らせだった。「剛」と「柔」、熱を帯びた迫真のチェロと、それを包み込むソフトで洗練されたピアノ。このコンビネーションは多彩な響きで流麗なメロディーを紡ぐフランス音楽、そして武満徹にぴったりではないか。

それぞれの個性を聴かせるべく、プログラムにはピアノ・ソロでラヴェル《高雅で感傷的なワルツ》、チェロ・ソロで武満徹の遺作《エア》が用意される。《エア》は原曲はフルートだが、遺族に特別に許可を取り、音域が随分違うチェロで弾くのは大胆な試みだ。上野は「作曲家の偉い世界観を表現したい」と話している。こうした熱意と独創は大いに歓迎したい。

ジュニエは近年、指揮活動にも力を入れているという。曲全体を俯瞰するバランスの取れた解釈と表現が新たな美点に加わったのだとすれば、持ち味の明晰で見通しの良い音楽作りとあいまって、チェロとの相乗効果もいや増すに違いない。

ドビュッシーの《チェロ・ソナタ》とプーランクの《ヴァイオリン・ソナタ（チェロ編曲版）》の二大名曲は言うに及ばず、ナディア・プーランジェの《3つの小品》もまた、フランス人のジュニエにとっては自家薬籠中の作品に違いない。上野には、ここぞという場面で楽器をしっとりと落ち着いて歌わせる繊細な感性がある。ジュニエにも、エネルギーにダイナミズムで音楽を駆動させる瞬間がある。二人の出会いはどんな新たな躍動を生むだろうか。

(まつもと・りょういち／音楽評論家)

上野通明(チェロ)&レミ・ジュニエ(ピアノ)

完売

2027年1月18日(月) 19:00

ラヴェル：高雅で感傷的なワルツ [ピアノ・ソロ]

武満 徹：エア [チェロ・ソロ] *

ドビュッシー：チェロ・ソナタ

ナディア・プーランジェ：3つの小品

プーランク：ヴァイオリン・ソナタ イ長調

*原曲は武満氏の遺作となったフルート独奏曲で、今回はご遺族の特別な許可を得てチェロで演奏します。

6,500円／U-25 3,000円 全席指定

特別協賛：株式会社きんでん

SCHEDULE

2026.11 ～ 2027.3

主 催 公 演

TOPPANホールチケットセンター

(10:00 ～ 18:00 土日祝休)

03-5840-2222

日時		公 演
11 /	16 (月) 18:30	第66回 プゾーニ国際ピアノコンクール 予選会 Glocal Piano Festival 2026 at TOPPANホール
	17 (火) 18:30	
12 /	8 (火) 19:00	フォーレ四重奏団
	9 (水) 19:00	
1 /	8 (金) 19:00	TOPPANホール ニューイヤーコンサート 2027 中野りな (ヴァイオリン) / 田原綾子 (ヴィオラ) / 伊東 裕 (チェロ) / 北村明日人・谷 昂登 (ピアノ) 特別協賛：鹿島建設株式会社
	18 (月) 19:00	上野通明 (チェロ) & レミ・ジュニエ (ピアノ) 特別協賛：株式会社きんでん
	20 (水) 19:00	《歌曲の森》～詩と音楽 Gedichte und Musik～ 第31篇／第32篇 イアン・ボストリッジ (テノール) & ジュリアス・ドレイク (ピアノ)
	22 (金) 19:00	第1夜 ―ゲート・アーベント 第2夜 ―リュッケルト・アーベント 特別協賛：株式会社 安藤・間

日時		公 演
2 /	26 (金) 19:00	佐藤俊介 (ヴァイオリン) × Trio Rizzle × 大谷恵理架 (ギター) 特別協賛：清水建設株式会社
	3 /	18 (木) 19:00
〈ランチタイムコンサート〉 TOPPANホールが選んだ若手ホープによるミニ・コンサート		[全席指定]
11 /	30 (月) 12:15	Vol.142 藤平実来 (ピアノ) ^{いにしへ} 古への憧憬と未来への響き
	12 /	24 (木) 12:15
	24 (木) 12:15	Vol.143 的場 桃 (ヴァイオリン) 音の彩り―古典から情熱へ
※開場は開演の30分前となります。 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。なお、全主催公演で託児サービス[要予約・有料]をご利用いただけます。 ご利用の詳細については、各公演チラシをご確認ください。		
2026年10月中旬現在		

最新情報はオフィシャルWEBサイトでご案内しています ※WEBチケットもご利用いただけます

www.toppanhall.com

INFORMATION

2026/2027 シーズン主催公演[後期] 発売日のお知らせ



2027年			
5/15 (土) 18:00	笹沼 樹 (チェロ) & 兼重稔宏 (ピアノ) ベートーヴェン《チェロ・ソナタ》全曲	2/3 発売	7/11 (日) 18:00
6/21 (月) 19:00	キリル・ゲルシュタイン (ピアノ)	2/24 発売	7/13 (火) 19:00
7/7 (水) 19:00			7/14 (水) 19:00
7/8 (木) 19:00	ベルチャ・ファルテット ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会Ⅰ～Ⅲ	4/14 発売	8/10 (火) 19:00
7/10 (土) 18:00			4/28 発売
※発売日は変更になる可能性があります。 ※各公演の詳細はオフィシャルWEBサイトにてご確認ください。			

世界の巨匠と日本の俊英―室内楽の真髄に会う、至高のチェロ2公演

この秋注目の2公演は、チェロを軸に室内楽を心ゆくまで堪能できる夢の競演。

ベルリン・フィル第1ソロ・チェロ奏者ルートヴィヒ・クヴァントと、ヴィルヘルム・ケンプの系譜を継ぐドイツ・ピアノ音楽の巨匠ゲルハルト・オピッツがTOPPANホールのステージに初登場 (11/10)。名手二人が作品の深奥に迫る至高のデュオをお届けします。ベートーヴェン、ブラームスの第一人者であるオピッツの魅力は作品の構造と深みをじっくりと聴かせる、その圧倒的な説得力と存在感。クヴァントはシャープでなめらかでありながら、じっくり歌うチェロの魅力と情熱も感じさせてくれます。今回はそれぞれの個性と、室内楽の醍醐味である深い対話を聴くことができる3つのソナタ― ベートーヴェン、ショスタコーヴィチ、ブラームスの世界がTOPPANホールの木の空間に広がります。名だたる音楽家たちと共演を重ねてきた二人だからこそアンサンブルは、これぞ室内楽！と聴衆を唸らせることでしょう。



TOPPANホールのステージではお馴染みのチェリスト、N響首席奏者の辻本玲と都響首席奏者の伊東裕のデュオ公演 (11/28)。高評を得た今年初めの名古屋公演のあと、東京公演を熱望する声に応えてのTOPPANホール開催となりましたが、チケットも早くも完売。聴衆の期待の高さがうかがえます。

ともに日本を代表するオーケストラを支える二人ですが、チェロ2本だけで描き出す本公演は、スリリングな緊張感と無限の可能性にあふれた充実の時間となりそう。実力派同志が、互いへの敬意と自身の挑戦を詰め込んで、皆さまにチェロの魅力を余すところなくお伝えします。

なお、辻本は2027年1月にソロ・リサイタルを、伊東も同じく1月にTOPPANホール主催のニューイヤーコンサートに登場します。こちらも是非ご期待ください。



ルートヴィヒ・クヴァント & ゲルハルト・オピッツ デュオ・リサイタル 2026年11月10日 (火) 19:00 ルートヴィヒ・クヴァント (チェロ) / ゲルハルト・オピッツ (ピアノ) ベートーヴェン: チェロ・ソナタ第1番 へ長調 Op.5-1 ショスタコーヴィチ: チェロ・ソナタ ニ短調 Op.40 ブラームス: チェロ・ソナタ第2番 へ長調 Op.99 全席指定: 9,000円 / U-25 3,000円 主催・お問い合わせ: パシフィック・コンサート・マネジメント 03-3552-3831
--

辻本 玲 & 伊東 裕 チェロ・デュオ リサイタル ～響き逢う、2本のチェロ～ 2026年11月28日 (土) 14:00 辻本 玲、伊東 裕 (チェロ) パガニーニ: モーゼ変奏曲 リゲティ: 無伴奏チェロ・ソナタ ソッリマ: 野生の樹木園 オフエンバック: 2本のチェロのための二重奏曲第1番 変ロ長調 Op.53-1 他 主催・お問い合わせ: チケットスペース 03-3234-9999	完売
---	----

チケットのお申し込み: TOPPANホールチケットセンター

表紙: バトリツィア・コパチンスカヤ

音楽の化身さながらの刺激的ステージで毎回客席を魅了する“裸足の妖精”。2024年12月、カメラータ・ベルンを率いた圧倒的なパフォーマンスでも忘れがたい2日間を刻みました。今回は日本初舞台をともにした盟友ソル・ガベッタとの20年ぶりのTOPPANのステージ。絶対的な信頼と自由な対話がほとばしる一夜で、今度はどんな伝説が生まれるのでしょうか。期待しありません。

編集後記

異例の長雨の日々を経て、ついに新しいシーズンが幕を開けました。今シーズンも皆さまの心に、唯一無二の瞬間を心を込めてお届けしてまいります。注目のフォーレ四重奏団公演 (12/8、9) は紙面でその魅力をお伝える間もなく、発売後即完売となり嬉しい悲鳴。

ホールとして初の試みとなる国際ピアノコンクール予選会「Glocal Piano Festival (11/16、17)」など、新たな試みにも果敢に挑戦します。音楽へのたゆまぬ情熱とともに歩む今シーズン、皆さまのお運びを心よりお待ちしております。(ゆ)

追加決定！

ビーバー・バッハからファンダンゴへ―
名手たちが魅せる極上の交錯！

言わずと知れた多才なヴァイオリニスト佐藤俊介と、ホールゆかりの実力派トリオ「Trio Rizzle」、注目の若手ギタリスト大谷恵理架が共演し、ビーバーやバッハの密やかな響きから全員が一堂に会するポッケリーニの情熱的な《ファンダンゴ》まで、個々の魅力と贅沢なアンサンブルの濃密な交錯を、どうぞお楽しみください！

佐藤俊介 (ヴァイオリン) × Trio Rizzle ×
大谷恵理架 (ギター)

2027年2月26日 (金) 19:00

Trio Rizzle [毛利文香 (ヴァイオリン) / 田原綾子 (ヴィオラ) / 笹沼 樹 (チェロ)]

ソル: 悲歌的幻想曲 Op.59 [大谷]
J.S.バッハ: 3声のシンフォニア BWV787～801より 抜粋 [Trio Rizzle]

ビフル: 弦楽三重奏曲第6番 ニ長調 Op.7 [Trio Rizzle]

ビーバー: 《ロザリオのソナタ》より
第16曲《パッサカリア》[佐藤]

J.S.バッハ: 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番
ニ短調 BWV1004 [佐藤]

ポッケリーニ: ギター五重奏曲第4番 ニ長調 G448《ファンダンゴ》

6,000円 / U-25 3,000円 全席指定

発売日: 10月28日 (水) 発売 [会員: 10月24日 (土)]

特別協賛: 清水建設株式会社

音の彩り―古典から情熱へ



今回登場する的場桃は、作品へ丁寧に向き合う誠実なアプローチと、あふれる気品、豊かな歌ごころで聴き手を魅了する注目のヴァイオリニスト。ヴァイオリンという楽器本来の美しさと深みのある艶やかな音色を存分に味わわせてくれます。共演には同世代の注目ピアニスト片岡琴佑を迎え、的場の多面的な魅力を引き出す緻密なアンサンブルをお届けします。

プログラムは、モーツァルト、ヤナーチェク、フバイという、時代も性格も大きく異なる3つの作品。作曲家ごとの様式感の違いや作品に込められた情熱を、二人がいかに鮮やかに描き分けるか。“歌う楽器”ヴァイオリンの魅力をあらためて味わうひとときに、どうぞご期待ください。

〈ランチタイムコンサート Vol.143〉
的場 桃 (ヴァイオリン)

2026年12月24日 (木) 12:15

片岡琴佑 (ピアノ)

モーツァルト: ヴァイオリン・ソナタ ト長調 K301 (293a)

ヤナーチェク: ヴァイオリン・ソナタ

フバイ: カルメンによる華麗な幻想曲

1,500円 全席指定

発売日: 11月5日 (木) [会員: 10月29日 (木)]

【TOPPANホールクラブ】

無料 (ゴールド会員2枚 / レギュラー会員1枚)

※電話・窓口にてお申し込みください。